



2023年4月28日

各位

会社名 マックス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 黒沢 光照
 (コード番号 6454 東証プライム)
 問合せ先 常務取締役上席執行役員 角 芳尋
 (TEL 03-3669-8106)

(訂正・数値データ訂正)「2022年3月期決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正について

当社は、2022年4月28日に開示いたしました「2022年3月期決算短信〔日本基準〕(連結)」に一部誤りがありましたので、下記のとおり訂正いたします(訂正箇所は___線で示しております)。また、数値データ(XBRL)にも訂正がありましたので、訂正後の数値データも送信いたします。

記

1. 訂正の理由

「2022年3月期決算短信〔日本基準〕(連結)」の発表後に、記載内容について一部誤りがあることが判明したため、訂正するものであります。

2. 訂正の内容

(1) サマリー情報

1. 2022年3月期の連結業績(2021年4月1日~2022年3月31日)

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

【訂正前】

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2022年3月期	5,629	<u>△1,651</u>	△3,274	<u>23,302</u>
2021年3月期	8,798	△5,349	△4,483	21,421

【訂正後】

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2022年3月期	5,629	<u>△2,442</u>	△3,274	<u>22,435</u>
2021年3月期	8,798	△5,349	△4,483	21,421

(2) 添付資料4, 5ページ

1. 経営成績等の概況

(2) 当期の財政状態の概況

②連結キャッシュ・フローの状況の分析

【訂正前】

連結キャッシュ・フロー計算書 要約

(単位：百万円)

区 分	2021年3月期	2022年3月期	増減
現金及び現金同等物の期首残高	21,849	21,421	△428
営業活動による収支 (△は超過額)	8,798	5,629	△3,169
投資活動による収支 (△は超過額)	△5,349	<u>△1,651</u>	<u>+3,698</u>
財務活動による収支 (△は超過額)	△4,483	△3,274	+1,209
現金及び現金同等物に係る換算差額	594	<u>1,177</u>	<u>+582</u>
現金及び現金同等物の増減額	△440	<u>1,880</u>	<u>+2,321</u>
現金及び現金同等物の期末残高	21,421	<u>23,302</u>	<u>+1,880</u>

キャッシュ・フローの状況の分析

当連結会計年度における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)の期末残高は、現金及び現金同等物の増減額が 18億8千万円増加したことにより、233億2百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における営業活動による資金の増加は、56億2千9百万円となりました。主な増加は税金等調整前当期純利益が82億4千9百万円、減価償却費が28億1千1百万円、一方で主な減少は、棚卸資産の増減額が22億3千万円、法人税等の支払額が17億3百万円です。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における投資活動による資金の減少は、16億5千1百万円となりました。主な減少は、有形固定資産の取得による支出が41億6千万円、有価証券及び投資有価証券の取得による支出が12億4百万円、一方で主な増加は、有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入が39億円です。

【訂正後】

連結キャッシュ・フロー計算書 要約

(単位：百万円)

区 分	2021年3月期	2022年3月期	増減
現金及び現金同等物の期首残高	21,849	21,421	△428
営業活動による収支 (△は超過額)	8,798	5,629	△3,169
投資活動による収支 (△は超過額)	△5,349	<u>△2,442</u>	<u>+2,906</u>
財務活動による収支 (△は超過額)	△4,483	△3,274	+1,209
現金及び現金同等物に係る換算差額	594	<u>1,102</u>	<u>+507</u>
現金及び現金同等物の増減額	△440	<u>1,014</u>	<u>+1,454</u>
現金及び現金同等物の期末残高	21,421	<u>22,435</u>	<u>+1,014</u>

キャッシュ・フローの状況の分析

当連結会計年度における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)の期末残高は、現金及び

現金同等物の増減額が10億1千4百万円増加したことにより、224億3千5百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における営業活動による資金の増加は、56億2千9百万円となりました。主な増加は税金等調整前当期純利益が82億4千9百万円、減価償却費が28億1千1百万円、一方で主な減少は、棚卸資産の増減額が22億3千万円、法人税等の支払額が17億3百万円です。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における投資活動による資金の減少は、24億4千2百万円となりました。主な減少は、有形固定資産の取得による支出が41億6千万円、有価証券及び投資有価証券の取得による支出が12億4百万円、一方で主な増加は、有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入が39億円です。

添付資料 14 ページ

3. 連結財務諸表及び主な注記

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

【訂正前】

	(単位:百万円)	
	前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券及び投資有価証券の取得による支出	△3,011	△1,204
有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入	2,848	3,900
有形固定資産の取得による支出	△4,943	△4,160
有形固定資産の除却による支出	△150	—
有形固定資産の売却による収入	—	10
無形固定資産の取得による支出	△136	△227
無形固定資産の売却による収入	0	—
貸付けによる支出	△2	△1
貸付金の回収による収入	46	36
資産除去債務の履行による支出	—	△4
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,349	△1,651
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△1,976	△744
配当金の支払額	△2,248	△2,290
非支配株主への配当金の支払額	△0	—
リース債務の返済による支出	△258	△238
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,483	△3,274
現金及び現金同等物に係る換算差額	594	1,177
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△440	1,880
現金及び現金同等物の期首残高	21,849	21,421
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	11	—
現金及び現金同等物の期末残高	21,421	23,302

【訂正後】

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	—	<u>△791</u>
有価証券及び投資有価証券の取得による支出	△3,011	△1,204
有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入	2,848	3,900
有形固定資産の取得による支出	△4,943	△4,160
有形固定資産の除却による支出	△150	—
有形固定資産の売却による収入	—	10
無形固定資産の取得による支出	△136	△227
無形固定資産の売却による収入	0	—
貸付けによる支出	△2	△1
貸付金の回収による収入	46	36
資産除去債務の履行による支出	—	△4
投資活動によるキャッシュ・フロー	<u>△5,349</u>	<u>△2,442</u>
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△1,976	△744
配当金の支払額	△2,248	△2,290
非支配株主への配当金の支払額	△0	—
リース債務の返済による支出	△258	△238
財務活動によるキャッシュ・フロー	<u>△4,483</u>	<u>△3,274</u>
現金及び現金同等物に係る換算差額	594	<u>1,102</u>
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	<u>△440</u>	<u>1,014</u>
現金及び現金同等物の期首残高	21,849	21,421
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	11	—
現金及び現金同等物の期末残高	<u>21,421</u>	<u>22,435</u>

以上